

令和4年度 支部活動等助成事業報告書



大阪生活サポート協会

はじめに

平素は、支部（事業所等）の皆様方のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会（以下、「大阪生活サポート協会」という。）は、知的障がい児者・自閉症児者が住み慣れた地域で「自分らしく生きる」ために各種事業と「生活サポート補償制度」で支援（応援）しています。

事業の一つである「支部活動等助成事業」は、平成 22（2010）年度から毎年、支部単位での事業実施に対して助成してきました。

コロナ禍の影響で支部活動等助成事業の助成申請が減少しています。本年 5 月から新型コロナウイルス感染症の位置づけが 2 類から 5 類へと移行しました。各地域・各支部におかれましては、豊かな発想で企画していただきたいと願っています。

以下の項目を意識して頂き、出来ることから事業実施を進めていただきたく提案いたします。コロナ感染は気になりますが、感染防止対策に配慮し積極的に事業実施をお願いいたします。

■利用者参加型事業

地域で暮らす障がいのある方の参加しやすい、身近な地域での事業実施が重要と考えています。今、ちょっと頑張ればできることはないでしょうか。

（例：グループホーム入居者の余暇活動支援など）

■地域密着型事業

参加しやすい身近な地域で支部が、あるいは複数の支部（事業所）等が連携・協働して事業実施をする、これらの積み重ねが地域力を向上させることになるかと確信しています。

現在大阪府下を 7 地区ブロック（北摂・北河内・中河内・南河内・泉州・大阪市・堺市）に分けています。地区ブロック単位での事業の推進に努めていただきたいと願います。

■人材育成

障がいのある方は生活の主体者であり、権利の主体者です。日々支援に携わる者と障害福祉サービス利用者との関係性は、言うまでもなく対等の関係であります。時として、多種多様な業務を前にして利用者主体でなく支援者中心の支援のありようになっていないでしょうか。

令和 4（2022）年度から障害者虐待防止のさらなる推進ということで、従業者への研修の実施が義務化されています。地区ブロック内で複数の支部が協働して研修会を開催するなど工夫されることを期待します。

■ネットワークの構築を目指して

一法人での事業実施には限界があります。一法人完結から地域完結の事業実施の必要性を実感しています。特に防災活動に関しましては、身近な地域での各支部や障害福祉サービス提供事業所、関係機関・団体、地域住民等との連携・協働作業が必須であります。実践こそがネットワーク構築への一歩です。

本報告書の資料編に「大阪生活サポート協会事業の概念図」を掲載しています。大阪生活サポート協会事業の全体像をご理解いただき、事業の一つである「支部活動等助成事業」を活用して障がいのある方たちの暮らしやすい地域づくりの一助となる「いとなみ」を進めましょう。

令和 5（2023）年 7 月吉日

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

1 (社福) こそせ福祉会	拓共同作業所……………	1
2 (NPO) いきいき	いきいき……………	2
3 (社福) 聖徳園	ワークメイト聖徳園……………	3
4 (社福) 草の根共生会	蓮……………	5
5 (社福) 路交館	ういず守口……………	6
6 (社福) いわき学園	住之江木の実園……………	7
7 (社福) コスモス	ふれあいの里かたくら……………	9
8 (社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ……………	10
9 (社福) 路交館	ういず滝井……………	11
10 (株) アベリア企画	ハミガキ広場……………	12
11 (NPO) 百舌鳥あすなろ会	あすなろ授産所……………	14
12 (社福) 摂津宥和会	摂津市立ひびきはばたき園……………	15
13 (合同) 美之倉	やすらぎの苑 中津……………	16
14 (社福) いずみ野福祉会	山直ホーム……………	17
15 (社福) 障友会	わららか草部……………	18
16 (社福) さんすまいる	さん・すまいる……………	19
17 (社福) 大阪府社会福祉事業団	みずほおおぞら……………	21
18 (社福) 和泉つくし福祉会	さらの郷……………	23
19 (社福) 明星福祉会	芥川事業所……………	26
20 (社福) バオバブ福祉会	えるで……………	27

Ⅱ 資料

令和4年度支部活動等助成事業実施要項

令和4年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会事業の理念と概要

- 表紙作品 「虹の公園」西平守純と第2さらの郷利用者（第2さらの郷）

令和4年度 支部活動等助成事業報告

I 支部活動報告

1 支部名：拓共同作業所

- ① 実施日： 令和4年9月2日（金）
- ② 実施場所： 富田林市内法人各施設（5ヶ所）
 - （1）拓共同作業所 （2）第2拓作業所 （3）すずらんホーム
 - （4）さらホーム （5）たんぼぼ学童

③ 対象者： 約120名

④ 実施概要・目的

「防災用ポータブル電源の整備」（大阪88万人訓練への参加）

⑤ 具体的内容

法人として令和4年度の「大阪880万人訓練」に参加、大地震により市内のライフラインがストップしていることを想定し、ポータブル電源を使用し、パソコン・各施設スマートフォンを稼働させて情報を共有する取り組みを行った。

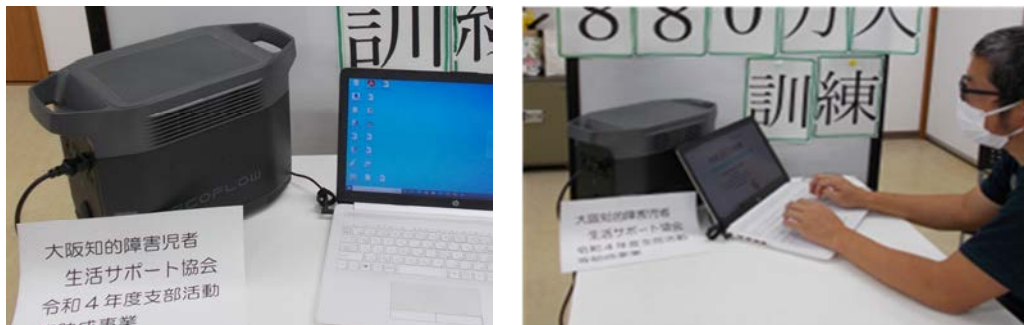
⑥ 成果

ポータブル電源にパソコンを接続して使用したが、安定して訓練時間内に使用することができた。また家庭用冷蔵庫や扇風機なども十分24時間は使用することができた。

エンジン発電機とは異なり騒音や排気ガスが出ることはなく、持ち運びが手軽だったので利便性に優れている。

⑦ 今後の展望

生活施設としてのグループホームには早期に整備することができた。調理場の大型冷蔵庫や電子レンジなどを接続して試してみる。



⑧ 収支報告

〈収入〉	金額	〈支出〉	金額
助成金	139,800	ポータブル電源	418,500
自己資金	278,700		
計	418,500	計	418,500

2 支 部 名 : い き い き

- ① 実 施 日 : 令和4年9月2日 (金)
- ② 実 施 場 所 : 京都太秦映画村
- ③ 対 象 者 : 利用者23名 職員17名
- ④ 実施概要・目的

「いきいき日帰り旅行の実施」

- ⑤ 具体的内容

概要：京都太秦映画村に到着後、昼食を食べる。その後グループ別に映画村内のアトラクション等を体験したり、おやつタイムをしたりお土産を購入する。ペースがほぼ同じ利用者のグループなので、グループで何がしたいかなど、利用者の希望を聞きながらアトラクションを選択し活動する。

目的：利用者の余暇活動の機会とし、社会参加の場を提供する。また社会のルールを学ぶ機会にする。

7：35 出発 10：40 映画村到着 11：00～12：00 昼食
12：00～ グループ別映画村散策開始（アトラクション、おやつ、お土産購入など）
15：30 全員集合（集合写真を含む） 16：15 映画村出発
18：00 到着 →送迎開始

- ⑥ 成 果

利用者の皆さんは大変喜んでおられました。混んでいるアトラクションは並んで入場など職員と一緒に行動しました。コミュニケーションがうまく取れずにお一人で集団から離れて行かれた方がおり、日頃の中で自分の意思をうまく伝える方法の獲得が必須と再認識した。

- ⑦ 今後の展望

新型コロナウイルスが広まる前には一泊旅行も実施していたので、利用者が親御さんのレスパイトの目的や自宅と違うところで安心して眠れるようになるということも、目標にして一泊旅行も再開できるようになればと考える。

- ⑧ コロナ感染防止対策

座席は密にならないようにするため2台のバスを借りてひとり一席で実施した。マスクの予備やアルコールなど持参して実施。できるだけ団体での行動は控えるようにした。小グループ制でマスクの着用はきちんとしてもらったようにした。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	貸し切りバス2台	287,100	
自己資金	334,550	高速・駐車料金	28,800	
		映画村入場料金	36,000	
		アトラクション券	24,000	
		食事代	50,150	
		乗務員昼食	5,500	
		旅行傷害保険	12,000	
		添乗費用	26,000	
		旅行業務取扱料	15,000	
計	484,550	計	484,550	

3 支部名：ワークメイト聖徳園

① 実施日：令和4年10月7日（金）

② 実施場所：社会福祉法人聖徳園 ワークメイト聖徳園

③ 対象者：法人内利用者66名 ご家族78名 職員22名 計166名

④ 実施概要・目的

「『グルメイベント2022』の開催」

- ・コロナ禍で通常通りのレクリエーションが実施できない中でも楽しめる時間を提供できるように実施。
- ・利用者が特に好まれる行事が飲食関係の外出行事であるため、感染防止対策を講じながら施設内で外食レクリエーションの気分を味わっていただく。
- ・ご家族の方も施設に来所する機会が減った今、喫茶部・栽培部の商品をお土産として持ち帰っていただき、ご家族で楽しんでもらう。

⑤ 具体的内容

近隣の飲食店5店舗より、各1品ずつ食品をピックアップ。事前に利用者に希望調査を募り、注文。当日テイクアウトして施設に持ち帰り、昼食時間に提供した。また、当園自慢のフィナンシェ（焼き菓子的一种）とクッキー、ジュースをデザートとして味わってもらうといった内容で実施。特にハンバーガーやチキンなどファーストフード店のセットが人気であった。ご家族が高齢で外食の機会がない方、自分で買いに行く、食べに行くことが難しい方の中には初めて食べるという方もおられ、非常に喜んでいる様子が伺えた。またいつもはお客様にお出ししているフィナンシェセットを自ら味わえるということで自社商品への関心も高まった様子が見られた。

帰宅の際には当園喫茶部よりお菓子詰め合わせ、当園栽培部よりお花のお土産を用意し、持ち帰って頂いた。当日欠席の方に関しては昼食こそ提供できなかったものの、お土産を別日にお渡しすることですべての利用者に喜んでいただくことができた。

⑥ 成 果

イベント当日2週間前から告知用チラシを掲示していたが、当日までの間、毎日のように何を選ぶかを迷いながらもワクワクする姿が多く見られた。イベントが終わってからも「おいしかったなあ」「今度は違うものが食べたい」「また実施してほしい」等、余韻に浸って喜んでいる利用者も多く、このイベントに関する関心度の高さが伺えた。当日も普段から食欲旺盛な方はもちろん、普段昼食を残しがちの方も完食されており、外食（今回はテイクアウト食であるが）行事の需要、人気の高さを感じる結果となった。

今回は平常通りの昼食時間に、普段提供している給食の代わりといった形で提供した為、準備も効率よく、職員が余裕をもって実施でき、利用者とのコミュニケーションをとる時間を多くつくる事ができた。

⑦ 今後の展望

イベント当日だけに関わらず、「グルメイベントが楽しみ」という気持ちで過ごされている方が非常に多く、当日の昼食後もお弁当の感想を話しながらいきいきと作業や活動に取り組まれている姿を目にすることができたことから、利用者のモチベーションの向上に貢献できたイベントであった。今後も継続的にグルメイベントを実施していきたいと思う。また、お土産をご家庭に持ち帰っていただいた後、お土産をきっかけにイベントの話題がご家庭で上がったという話も耳にしている。栽培部・喫茶部はこれから施設内外でのイベントへの参加、お菓子・お花の販売をより精力的に行う予定があり、利用者ならびにご家族の来店、来園のきっかけになっていただければと思っている。

⑧ コロナ感染防止対策

食事前後の手洗い・消毒を徹底した。また、会場内は常に換気を行い、各机にパーティションを設置。人数調整のため時間を分けて少人数ずつ会場にて距離を測って座り、食事とデザートを摂った。食事後の机はアルコールにて消毒。食事中は黙食を呼び掛けており、食事後は速やかにマスクを着用していただき、退席した。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	テイクアウト弁当 (141個)	65,790	
自己資金	39,990	デザート	46,200	
		菓子詰め合わせ	39,000	
		花鉢	39,000	
計	189,990	計	189,990	

4 支 部 名： 蓮

① 実 施 日： 令和4年10月13日 (木)

② 実 施 場 所： 蓮事業所内

③ 対 象 者： 職員全員、一部利用者

④ 実施概要・目的

「災害時における電源確保のためのポータブル発電機の購入」

災害時における電源の確保と災害時の停電に備えて通信、灯り等の電源を確保しておく。

⑤ 具体的内容

災害発生時、規模にもよるが一時的な避難場所として施設が利用される可能性が高いとみられ、また甚大な災害となれば家族の事情や被害の状況から施設での生活が長期化される。当然停電も想定される中、携帯電話、灯り、非常食（湯を沸かす）など何かと電源が不可欠と考えられる。また同法人ではグループホーム入居者もおられるためポータブル電源は持ち運びもしやすく、大いに活用できる。

⑥ 成 果

業務継続計画（BCP）作成においても、避難生活における備蓄品、電源確保を重視しておりました。本事業を活用させていただき、このたび「ポータブル電源」の購入に至りましたが、今後も計画的に備蓄品同様、一台また一台と購入し、準備していきたいと考えている。今回を機により防災意識が高まることを期待します。

⑦ 今後の方針

今後、模擬店などを行う際には「ポータブル電源」を使用する機会が増えると思います。定例で開催される地域交流会や地域のイベント（地蔵尊祭り等）を通じて、「ポータブル電源の購入」の周知を行います。また合わせて法人所有の「綿菓子機」・「ポップコーン機」に加え、新たに「ポータブル電源」の貸し出しの案内を行い、より地域の方にとって身近な存在になれるよう努めたいと考えます。また施設掲示板、ホームページにも本事業の活用の旨と「ポータブル電源の購入」について報告させていただきます。



⑧ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	ポータブル発電機	147,380	
自己資金	8,000	外付用ソケット	7,480	
		カセットガスボンベ	2,230	
		4サイクルオイル	910	
計	158,000	計	158,000	

5 支部名：ういず守口

- ① 実施日： (前半) 令和4年10月7日(金)～8日(土)
(後半) 令和4年10月21日(金)～22日(土)
- ② 実施場所： 神戸ハーバーランド・しあわせの村
- ③ 対象者： (前半) 利用者11名・職員8名 (後半) 利用者11名・職員8名
- ④ 実施概要・目的

「メンバー泊旅行の実施」

メンバー同士の慰労・懇親 (3年ぶりのチャレンジ)

⑤ 具体的内容

重度な障がいのある生活介護利用者にとって仲間と共に過ごすことを大事に考えてきました。利用者にとっては3年間コロナウイルス感染症で宿泊旅行に行けませんでした。今年、今年は感染予防対策をとったうえで「メンバー旅行へいく」ことを決定しました。

とはいえ、宿泊行事の経験が少ない職員が大半を占める中、また退職や長期入院の職員が出たため、職員の体制が不十分になりました。安全確保を最優先にするために、日程を2回に分け、他セクションからの職員の応援を得て無事に宿泊行事を終えることができました。利用者たちも数年ぶりの行事に、たくさんの笑顔と思い出を共有することができました。

⑥ 成果

利用者の希望、職員の思いがある中で、優先順位は何なのか？何を目的に何を大切にしていくかを職員間で議論・活動ができたことが良かった。

⑦ 今後の展望

職員・利用者共々経験を積んでいき、より幅広い宿泊行事にしていきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・バスの座席は密回避のため、2座席を一人で座るようにした。
- ・バスの乗車時間を最短にすることを考え、片道1時間で行ける場所に設定した。
- ・消毒・マスク着用は移動時には常に声かけ対応した。
- ・食事中の介助はフェースシールド着用で対応した。
- ・入浴は貸し切りにて対応。
- ・観光はなるべく屋外を取り入れた。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉	
項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	宿泊費	292,780
自己資金	549,070	昼食費（1日目）	46,160
		昼食費（2日目）	52,950
		バス代、高速代、駐車場、手配料	307,180
計	699,070	計	699,070

6 支部名：住之江木の実園

- ① 実施日： 令和4年10月15日（土）
- ② 実施場所： 万博記念公園内 生きているミュージアム「ニフレル」
コスモタワー48階「ワールドビュツフェ」
- ③ 対象者： 利用者、職員、ボランティア 合計59名
- ④ 実施概要・目的
「バスレクリエーション（日帰り）の実施」
- ⑤ 具体的内容

新型コロナウイルスの影響により、令和2年度、令和3年度に行うことが出来なかったバスレクリエーション（日帰り）を感染対策を講じ、2年8か月ぶりに実施した。初めに万博記念公園内のミュージアム「ニフレル」に行き、グループに分かれ、普段見ることのない多種多様な生き物や動物等を鑑賞し、近くでふれあうことができました。その後、住之江区南港北のコスモタワーへ移動し、48階「ワールドビュツフェ」にて大阪の景色を眺めながらバラエティ豊かなバイキング料理を味わいました。

⑥ 成 果

バスレクリエーションの参加にあたり、利用者には通常、実費相当額を負担していただいておりますが、支部活動等助成事業のご決定により、実費相当額ではなく参加費用（負担）が抑制される内容の案内をさせていただきましたので、従来のバスレクリエーションと比べ、より多くの利用者に参加していただくことができました。

感染防止のため、近年多くの外出行事を中止し、外出する機会が減少していました。バスレクリエーションにて集団で行動することにより、より良い人間関係を築き、社会生活への関心を深め、更に外出する楽しさを再認識することができました。

感染拡大により、本園でボランティア活動をしていただいている地域住民の方々と交流する機会が少なくなりましたが、バスレクリエーションにボランティアとして参加いただいた中で、本園利用者が、暗い館内において、高齢のボランティアの方に対し手を差し伸べて誘導するなど、交流を深め、さらにお互いを思いやる機会を得ることができました。

⑦ 今後の展望

今後も余暇活動として、利用者が見学や食事、買い物を楽しみながら社会性を養い、自立した日常生活、社会生活を営むことができるようなバスレクリエーションを実施したいと考えております。

⑧ コロナ感染防止対策

利用者による登園前の検温、職員による出勤前の検温、マスクの着用、手指消毒を実施し、食事中は必要最低限度の声掛けにとどめ、黙食に努めました。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	貸切バス料金	93,500
自己資金	95,415	高速代・駐車料金	11,990
利用者からの利用料	33,000	入館料	59,000
		昼食代	97,350
		旅行傷害保険・手数料	14,750
		乗務員・添乗員食事代	1,825
計	278,415	計	278,415

7 支 部 名：ふれあいの里かたくら

- ① 実 施 日： 令和4年11月28日（月）
- ② 実 施 場 所： ふれあいの里かたくら 2階部屋
- ③ 対 象 者： 重症心身障がいの利用者全員（18名）
- ④ 実施概要・目的

「サイドガード・フロアマットの購入」

サイドガード・フロアマットを設置して、安全にリラクゼーションを行う。

⑤ 具体的内容

重症心身障がい者のグループでは、食後やリラクゼーション・ストレッチなどの時間に車いすから降りて床にフロアマットを敷き、その上で身体を伸ばす時間を設けています。その時に安全にストレッチが行えるようにフロアマットとサイドガードを設置しました。

⑥ 成 果

サイドガードは仕切りの役目もあり、利用者の視線に急に職員の足や靴が迫ってくることを防ぎ、心身ともにリラックスする空間を提供できています。

⑦ 今後の方針

利用者の方が安全に安心してリラクゼーションやストレッチが行えるように、引き続き環境を整備していきたいと思えます。

⑧ コロナ感染防止対策

密にならないよう利用者同士の距離を空けたり、使用後はアルコール消毒を実施。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	サイドガード	56,100	
自己資金	80,284	フロアマット	94,184	
計	150,284	計	150,284	

8 支 部 名：夢 工 房 くるみ

- ① 実 施 日： 令和4年12月24日（土）
- ② 実 施 場 所： サンヒル柏原
- ③ 対 象 者： 夢工房くるみの利用者・職員 62名
- ④ 実施概要・目的

「忘年会の実施」

一年の労を労い、協働の意識を高めるための「忘年会」を実施した。

コロナ禍でストレスを感じている利用者の「楽しみ」の創出、また集団としての意識を高め、みんなで頑張った事を評価し、協働、助け合いの気持ちを再確認することを目的とした。

⑤ 具体的内容

- ・豪華な料理を食べ終わった後、新しい職員の紹介をする。
- ・参加者に「一言どうぞ」と順番にマイクを渡す。喜んでいる人や恥ずかしそうにしている人等、普段では見ることのできない表情を見ることができた。

⑥ 成 果

- ・忘年会を楽しみにしている利用者も多く、コロナ禍で「楽しみ」な活動が減少している中でも、取り組めたことに、ほとんどの利用者が喜び、参加率も高かった。
- ・普段は相性のよくない利用者同士でも、「忘年会」の間は一緒に参加し、楽しい雰囲気共有することができた。

⑦ 今後の方針

- ・普段の生活では、利用者個々に合わせた小グループでの活動が基本となるため、事業所全体としての仲間意識が希薄になってしまう。全体行事は仲間意識を再確認する場として必要である。「忘年会」はほとんどの利用者が楽しめる全体行事として、不可欠な取り組みであると認識できた。
- ・コロナ禍ではあるが、今後の開催についても、ワクチン接種や3密を避けるなど、感染予防に留意した環境を整え、唯一の全体行事である「忘年会」を開催していきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・手洗い、うがい、手指消毒、換気の徹底。
- ・会場の大きさに考慮し3密にならない広さの会場の確保。
- ・3密にならないテーブル、椅子の配置などの会場設営、定時毎の換気の徹底。
- ・マイクは使用の都度、消毒を行った。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	食事代	177,320	
自己資金	99,471	ケーキ代	10,101	
		景品代	36,960	
		会場費	20,000	
		雑費	5,090	
計	249,471	計	249,471	

9 支部名：ういず滝井

- ① 実施日： 令和4年9月9日（金）～10日（土）
- ② 実施場所： 京都 嵐山
- ③ 対象者： 利用者12名・職員7名
- ④ 実施概要・目的

「利用者一泊旅行の実施」

日々の仕事と慰労で生活のメリハリをつけるとともに、利用者のやる気の向上につなげることを目的に実施。

⑤ 具体的内容

重度な障がいをもつ生活介護利用者にとって仲間と共に過ごすことを大事に考えてきました。利用者さんにとっては3年間コロナウイルス感染症で宿泊旅行に行けませんでしたが今年は感染予防対策をとったうえで「メンバー旅行へいく」ことを決定しました。

「飛出せ京都」と題し、風や揺れや水、体で感じるメンバー旅行！旅行までにチームで色んな事を決めたり、話し合いを通してチーム作りを行ってきました。日々の仕事と慰労で滝井生活のメリハリ、次のやる気アップにつなげる。旅行までの過程を大事にして、みんなと一緒にだからできるを発見していく。

⑥ 成果

行くためには何をするのか、どうするのか？を利用者と共に考え、旅行行程も一緒に決めることができた。

⑦ 今後の展望

行事を利用者が自分たちのものとして進めていくことができるよう支援していきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・バスの座席は密回避のため、2座席を一人で座るようにした。
- ・バスの乗車時間を最短で考え片道1時間で行ける場所に設定した。
- ・消毒・マスク着用は移動時には常に声かけ対応した。
- ・食事の介助はフェースシールド着用で対応した。
- ・入浴は貸し切りにて対応。
- ・観光はなるべく屋外を取り入れた。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	宿泊費	193,800	
自己資金	283,310	昼食費	62,700	
		観光入館料	44,860	
		バス代	110,000	
		高速代	3,350	
		駐車場	3,600	
		旅行手数料	5,000	
		バス乗務員宿泊料金	10,000	
計	433,310	計	433,310	

10 支部名:ハミガキ広場

- ① 実施日: 令和4年10月31日(金)
- ② 実施場所: ハミガキ広場 多目的室
- ③ 対象者: 利用者13名 職員5名
- ④ 実施概要・目的

「日本情報処理検定受験における祝勝会・残念会の開催」

概要: 日本語ワープロ検定試験3級~2級、情報処理技能検定試験(表計算)4級~2級を受験、合格者に対し合格を祝し「祝勝会」を、不合格者に対し検討を称え「残念会」を実施。

目的：日々のパソコン勉強会の成果の確認とハミガキ広場運営「歯科用口腔ケア製品販売サイト」業務の向上

⑤ 具体的内容

ハミガキ広場では就労支援業務の一環として不定期ではありますがパソコン勉強会を実施しております。ハミガキ広場運営の口腔ケア商品通販サイト作業に伴うパソコンレベルの向上を目的としての勉強会であり日々の勉強会の成果を確認するため、また、将来の就労に役立たせるため希望者に対しワープロ検定試験3級～2級、情報処理技能検定試験（表計算）4級～2級を受験していただいた。受験の結果、5名8科目の合格者を祝い「祝勝会」を、2科目の不合格者の健闘を称え「残念会」を開催した。

例年ならば、外食等で食事会を開催しますが、新型コロナ感染対策として、高級弁当を購入しての開催といたしました。本会を開催するにあたり、コツコツと自宅や事業所内での勉強努力は、必ず報われ成果となること、人の喜びや悲しみを共有し思いやり・協調性を養うことを目的に実施した。

⑥ 成果

パソコンレベルの向上が成され通販サイト業務に参加される方の増員が図れた。

⑦ 今後の展望

通販サイト運営活動の促進と販売戦略の拡張を考え、利用者工賃向上を目的とする。また次年度以降も定着した活動として日本情報処理検定受験を行う。

⑧ コロナ感染防止対策

受験会場を一般会場ではなく、日本情報処理検定より承諾を得てハミガキ広場事業所にて実施し少人数での受験を実施した。祝勝会・残念会に関しては外食ではなくお弁当の購入を行い食事時の感染対策を行った。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	32,400	弁当購入代金	33,728	
自己資金	1,328			
計	33,728	計	33,728	

11 支部名:あすなる授産所

- ① 実施日: 令和4年10月5日(水) 購入 11月25日(金) 避難訓練実施
- ② 実施場所: あすなる授産所内
- ③ 対象者: あすなる授産所利用者25名 職員10名 計35名
- ④ 実施概要・目的

「大規模震災に備えて発電機の購入」大規模災害時の停電に備える為

⑤ 具体的内容

大規模震災が日中活動中に起これば、利用者のご家族と連絡が取れ、帰宅できるまでは事業所で過ごすことになり、電気が復旧するまで少なくとも利用者様と職員と合わせて約20名が2日間ぐらい過ごすだけの電力の備蓄が必要となり、現在用意している発電機では十分でないため、電力の大きな発電機を購入し、停電に備えたいと思います。

⑥ 成果

大規模震災で事業所が休業となると、利用者様やご家族が困り、迷惑をおかけすることになり、災害時のBCP(事業継続計画)は大事な課題となっています。今回、発電機の購入費用を助成していただいたことで、停電に備えることができました。

また、11月25日に地震・水害想定避難訓練を実施しました。その際、発電機の試運転をし職員全員が動かすことができるようになりました。

⑦ 今後の展望

大規模災害時の停電だけでなく、食料や職員が少ない時の支援の仕方、送迎方法、ご家族や関係機関との連絡の方法など、あらゆることをシュミレーションし、敏速にうまく対応できるようにしたいと思います。



⑧ 収支報告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	ガスパワー発電機	211,250
自己資金	148,200	専用カセットボンベ	6,950
計	218,200	計	218,200

12 支 部 名：摂津市立ひびきはばたき園

- ① 実 施 日： 令和5年2月18日（土）～23日（木）
- ② 実 施 場 所： 摂津市立コミュニティプラザ
- ③ 対 象 者： 摂津市立ひびきはばたき園 摂津市立みきの路 摂津市内の障がい者とご家族 地域一般市民 約70人

④ 実施概要・目的

「つくっ展（作品展）の開催」

摂津市立ひびきはばたき園利用者・摂津市立みきの路利用者が1年間を通じて作り上げた作品を出品。地域の人々との交流や相互理解・地域福祉の啓発を目的とした。

⑤ 具体的内容

作品「絵画や置物・陶器など利用者自らが望まれた作品を制作し、期間を設けてたくさんの方々に見てもらう」

⑥ 成 果

1年間の活動を通じて作り上げた利用者の作品を出品し、その作品を通じて日頃の訓練や活動について、来場者に理解を深めていただく。

⑦ 今後の展望

10数年続いている行事のため、地域に密着したイベントとなっています。今後も継続してこの行事を実施し、地域福祉の啓発に努め、障がいのある人が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指してまいります。

⑧ コロナ感染防止対策

音楽鑑賞会を実施予定であったが、多数の来客者が一つのホールでいる状況を回避するために、今年度は中止にした。作品展示場には、手指消毒用のアルコール設置とマスク着用での注意喚起を行った。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	53,115	作品材料費	5,280
自己資金	500	消耗品（写真用紙等）	18,740
		展示用白布レンタル代	29,095
		会場駐車代	500
計	53,615	計	53,615

13 支部名：やすらぎの苑 中津

- ① 実施日： 令和4年12月28日（水）
- ② 実施場所： やすらぎの苑 中津
- ③ 対象者： 利用者 職員 20名
- ④ 実施概要・目的

「コミュニケーション訓練（交流会）の実施」

事業所又は事業所外にてコロナ禍の中、自粛生活を強いられている利用者に、事業所内でコミュニケーション訓練としてグループを作り、感染予防を徹底しながら楽しい交流会を実施する。

⑤ 具体的内容

今回コミュニケーション内容は、利用者の意見の中で一番やりたいことを選びました。ビンゴゲームを取り入れ、ビンゴになった方から景品を選んでもらいました。

カード番号もお互いに伝えてあげたり見てあげたりして、コミュニケーションをとりながら進めていくことができました。参加が難しい方については、参加の利用者が代わりに協力してくれました。とても楽しいコミュニケーション訓練の交流会になったのか、次回も楽しみにして作業頑張りたいなど話されている方もいらっしゃいました。

⑥ 成果

交流の場として利用者間でゲームを通じて楽しくコミュニケーションがとれていた。また普段からマスク着用で表情などわかりづらいことが多い中、この時間はとても楽しんでいっている様子が伺えたため、当初の目的は果たせたと考えます。

⑦ 今後の展望

利用者の楽しい表情を見ると、今後もこのような機会を大切にしていきたいと思いました。このたびは助成のほど、ありがとうございました。

⑧ コロナ感染防止対策

各テーブルへの飛沫防止用アクリルパーテーション、事業所内の換気、マスク着用、アルコール消毒の実施。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	ゲーム・景品代	66,000	
自己資金	12,500	お菓子・飲み物代	16,500	
計	82,500	計	82,500	

1.4 支部名：山直ホーム

- ① 実施日：令和4年12月10日（土）、11日（日）、17日（土）、18日（日）
- ② 実施場所：山直ホーム館内 4か所（本館1階・2階、別館、別棟）
- ③ 対象者：利用者43名 本館1階：11名・2階：16名 別館：12名 別棟：4名
- ④ 実施概要・目的

「クリスマス会の開催」

- ・クリスマス会を通じ楽しむ。
- ・クリスマス会を通じ利用者同士が親睦する機会を作る。
- ・利用者の主体性を尊重する。（利用者の意見を尊重した内容にする・利用者が役割を持つ等）
- ・季節感を感じる。（飾りつけを行う・衣装を着る・ケーキなどを喫食する等）

⑤ 具体的内容

- ・買い出し・飾り付け・食事・演奏会・カラオケ

⑥ 成果

目的に沿って実行できた。

利用者が主体でクリスマス会が実施できるように、利用者自身で内容を決定したり、利用者自身が内容を決めるのが困難なユニットでは、職員が利用者とのコミュニケーションをとりながら一緒に内容を決めたりなど、ユニット等で内容を考え実施した。

利用者がクリスマス会の司会を務めたり、飾りつけや、買い出し、食事準備、片付けなども職員主体でなく利用者が積極的に参加できるよう利用者に合わせた支援を行った。

その結果、普段よりも表情が良い利用者が多く見られたこと、複数の利用者から笑顔で「楽しかった」「料理がおいしかった」「また来年もしようね」など今回の感想が食事後あった。コロナ禍で施設内行事が減っている中で、今回のクリスマス会を通じ利用者のQOLの向上が図られた。

⑦ 今後の展望

利用者のQOLの向上が図れるよう、利用者の要求を反映した内容で余暇活動を実施する。そのために、今回のように助成金や、充実した職員体制が必要である。

⑧ コロナ感染防止対策

新型コロナウイルス対策として、密を避けるため4つのユニットに分けて複数回の実施を行った。

さらに基本的な感染対策として、実施前の検温。館内の定期的な換気・除菌、マスクの着用など行った。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	84,000	食事・食器・菓子代等 (本館2階)	20,259	
自己資金	5,073	食事・食器・菓子代等 (本館1階)	17,306	
		食事・食器・菓子代等 (別館)	17,474	
		食事・食器・菓子代等 (別棟)	34,034	
計	89,073	計	89,073	

15 支部名:わららか草部

① 実施日: 令和4年10月14日(金)

② 実施場所: わららか草部 駐車場 (堺市西区草部783-1)

③ 対象者: 利用者 60名・職員 30名

④ 実施概要・目的

「わららか草部創立20周年記念式典の開催」

わららか草部20周年記念式典における記念品で使用する写真のドローン撮影

⑤ 具体的内容

社会福祉法人 障友会 わららか草部は2022年11月1日で創立20周年を迎えた。様々なセレモニーを行う中、記念品を作成するうえで空撮した写真をカレンダーにしてみたいという意見があり、それを前撮りで実施した。ドローン撮影をするうえで、「20」の人文字を作り撮影を行った。

⑥ 成果

撮影をした写真を使用したカレンダーを作成、利用者にお配りした。

(式典の11月1日に配布)

⑦ 今後の展望

今後も5年後、10年後など節目の年に施設の記念式典を行う予定。

⑧ コロナ感染防止対策

野外(施設駐車場)での撮影を行うことでコロナ感染対策とした。人文字で「20」を作ったが、ある程度の間隔をあけ椅子を用意し、そこに座っていただくことで密にならないように工夫した。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	148,500	ドローンでの撮影・編集費用	148,500	
自己資金	290,000	お祝いのケーキ代	40,000	
		写真を使つての記念品など	150,000	
		玄関に飾るモニュメント	100,000	
計	438,500	計	438,500	

16 支部名：さん・すまいる

① 実施日：令和5年1月4日（水）

② 実施場所：さん・すまいる

③ 対象者：さん・すまいる利用者 15名、支援員 13名、来賓 8名

④ 実施概要・目的

「さん・すまいる満10歳お祝いの会の開催」

施設の経過を知ってもらい、利用者・職員・来賓（役員・行事にかかわってもらっている講師）で共有する。

⑤ 具体的内容

11：30 ・さん・すまいるの経過

スライドを見ながら10年の歩みを振り返る

- ・これから頑張りたいことを発表（利用者）
- ・さん・すまいるへの思い（職員）
- ・来賓のみなさんの一言（来賓）
- ・挨拶（理事長）
- ・記念品贈呈（理事長）

12：30 会食：利用者・職員；お寿司・おでん・から揚げ（利用者にはお寿司のメニューを作成し、寿司職人さんに注文し、握ってもらう経験をする。）

来賓：お弁当を用意（お寿司、おでんは自由に取ってもらう。）

⑥ 成果

さん・すまいるの10年の経過をたどる。各年度の写真をパワーポイントで写しながら、説明を行うことで、どの利用者も話を聞いたり、スライドをしっかり見ることができていた。職員も近年採用した人も含め共有できた。来賓の皆さんからは、利用者への「頑張ってきたね」という声掛けを頂き、笑顔の利用者もいた。職員・来賓からも言葉

を頂き、普段聞くことのできない思いを聞くことができ、利用者にとって良い機会となった。記念品についても、10年前に開所した時に「書」の先生と一緒に取り組んだ「さんすまいる開所式」の文字をロゴにし、作成した為、「書」の先生も利用者のみなさんにタオルの文字の説明をされ思いを語られていた。利用者は、熱い思いを感じるものがあったと思われる。

会食では、寿司職人さんに来ていただくことで、みんなが好きなお寿司を食べられる(生もの)という事と直接寿司職人さんに自分はこれが欲しいと注文してもらおうスタイルを取り、注文するお寿司屋さんに行ったことのない利用者も寿司職人さんから受け取る経験ができた。欲しいものを表現する良い経験となった。

⑦ 今後の展望

さん・すまいるの経過を振り返ったことで、利用者の今後につながったように思う。利用者のこれから頑張りたいことは、「さん・すまいるで、お仕事頑張りたい」という声も聞かれた。節目を大切に、自分が通っている施設に愛着を持ってもらえるように、今後につなげていきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

通常の食堂と多目的室の仕切りのパーテーションを開け、感染予防のために広い空間で行った。向かい合わせにならないようにコの字に座席を設定し飛沫防止のパーテーションを利用者間に配置、窓は常に15cmぐらい開け、換気に努めた。今回は、人数制限し保護者の出席は見合わせた。来賓については、移動が少ないようにお弁当とした。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	寿司(職員人件費・材料費)	80,000	
自己資金	58,174	来賓用弁当	10,800	
		唐揚げポテト	11,340	
		記念品代	102,364	
		雑費(郵便代・振込手数料等)	3,670	
計	208,174	計	208,174	

17 支部名：みずほおおぞら

① 実施日

1. 令和4年10月1日（土）：つながりルームを使用した地域移行システムの運用
2. 令和5年3月17日（金）：地域のグループホーム事業所連絡会向けオンライン研修会

② 実施場所

1. 障がい者支援施設みずほおおぞら「つながりルーム」
2. 障がい者支援施設みずほおおぞら「相談室」

③ 対象者

1. 施設入所利用者 1名
2. 豊中市グループホーム事業所連絡会加盟事業所 4名

④ 実施概要・目的

「地域移行システムの運用実施に伴う機器の購入」

1. つながりルームを使用した地域移行システムの運用
2. 地域のグループホーム事業所連絡会向けオンライン研修会を行い、質の向上に寄与する。

⑤ 具体的内容

- ・みずほおおぞらの移行型施設入所で地域移行を実践してきた経験から作り上げた地域移行プログラムの実践を行いました。そのプログラムの後期段階として施設内にある「つながりルーム」での体験を利用者にして頂き、変化した環境での体験、支援者から離れて過ごす経験をして頂きました。「つながりルーム」にはICT（情報通信）機器の見守り支援機器があり、リモートで利用者の様子の確認や行動の記録、これまでの支援の変化の確認を行いました。購入したノートパソコンを活用し遠隔での見守りシステム運用を行いました。
- ・豊中市内のグループホーム事業所の管理者や世話人等にむけて、支援の質の向上のための研修を行いました。リモートによりグループホーム事業所の勤務中でも研修の受講が可能となります。また、地域生活支援拠点等として、グループホーム事業所へ無償で研修の提供を行いました。この研修会については「自閉症の理解」というテーマで実施をしました。

⑥ 成果

- ・「つながりルーム」を利用してもらった事で、どの程度環境の変化に対して生活をして頂けるか、またこれまでの支援による行動障害の減少が継続できるかなどを観察することができました。当利用者は見通しが持てないと大きな声を出される課題がありましたが、支援により見通しを持つ事ができ、さらに「つながりルーム」という環境を変えた体験においても大きな声を出されることはなく、過ごせることが確認できました。ノートパソコンというIT機器を増設することにより、見守り支援機器の活用を効率的に行う事が出来ました。グループホームなどへ地域移行する後期段階における、移行可能段階という評価、モニタリングの根拠としてデータを

取ることができました。また、地域移行をするために、利用者本人や家族にとっての移行決定判断材料のひとつになりました。

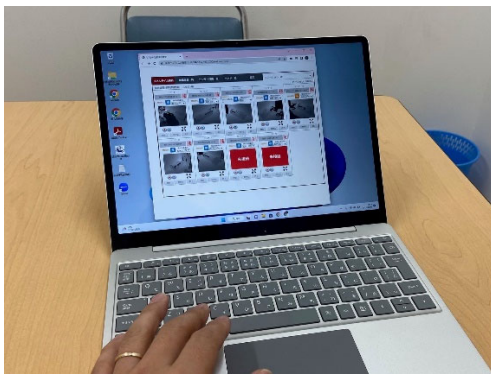
- ・グループホーム事業者連絡会に向けて研修を実施することで支援の知識の充実ができたという声も頂いています。また、グループホームでの支援の困りごとなど事業所の課題を共有することが出来、研修以外での相談を受ける事もあります。このような事をやって欲しいなどと、グループホームのニーズに対して、地域生活支援拠点として支援の質の向上などに寄与していけると思います。

⑦ 今後の展望

- ・「つながりルーム」のような、一人で生活する体験の場の活用事例を発信することにより、全国の施設入所の地域移行の一つのモデルとしていきたいです。また、実践を重ねる事で、そのモデルをブラッシュアップ（さらに良くする）させていきます。
- ・豊中市のグループホームのニーズを、地域課題の一つとして捉え、地域生活支援拠点等として課題解決に寄与していきます。またグループホーム等の新たなニーズに答えられるように直接支援の実習などの受け入れ実施を検討します。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・標準予防策（スタンダード・プリコーション）の徹底、職員の手指消毒液の常備・使用徹底、支援中のフェイスシールドの着用徹底。
- ・リモートによる実施。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	ノートパソコン	98,802	
自己資金	28,802			
計	98,802	計	98,802	

18 支部名：さらの郷

① 実施日

1. 令和4年10月15日（土）：「共同生活援助」見学
2. 令和4年12月10日（金）：合同研修会 令和5年3月4日（土）：合同事例検討会

② 実施場所

1. 「共同生活援助」見学：社会福祉法人北摂杉の子会「レジデンスなさはらもとまち」
2. 合同研修会、合同事例検討会：社会福祉法人和泉つくし福祉会「さらの郷」

③ 対象者

1. 「共同生活援助」見学
 - ・社会福祉法人和泉つくし福祉会：理事長 他職員2名（計3名）
 - ・NPO法人サポートグループほわほわの会：代表理事 他職員2名（計3名）
2. 合同研修会《実施日：令和4年12月10日》
 - ・社会福祉法人和泉つくし福祉会：理事長 他職員6名（計7名）
 - ・NPO法人サポートグループほわほわの会：代表理事 他職員3名（計4名）
 - ・NPO法人えるたす：代表理事（計1名）
3. 合同事例検討会《実施日：令和5年3月4日》
 - ・社会福祉法人和泉つくし福祉会：理事長 他職員5名（計6名）
 - ・NPO法人サポートグループほわほわの会：代表理事 他職員4名（計5名）
 - ・NPO法人えるたす：代表理事（計1名）

④ 実施概要・目的

「人材育成及び専門性向上のための合同研修会等の実施」

- ・同じ地域の他法人との協働的取り組みによる合同研修会等を実施する。

⑤ 具体的内容

1. 「共同生活援助」見学

重度の障がい（強度行動障がい・自閉症・最重度の知的障がい等）を有する方のニーズや障がい特性に合わせて建物を設計されたグループホームを見学しました。

下記のような工夫が施された建物等を目の当たりにし、今後の運営や支援等に関して大きな刺激となる内容でありました。

- ・設計の段階で入居者が確定していたため、入居者個々に合わせたオーダーメイド設計である。
- ・各居室はオプション内装を設定している。（防音壁・防振マット・防音シート・遮光カーテンなど）
- ・居室と居室の間に押入れを設けて音を遮断している。
- ・個別対応が必要な方に合わせて完全個室2室を完備し、玄関・トイレ・洗面所も個別に設置している。
- ・各スタッフ室と厨房は外から直接出入りできる。
- ・安全のため避難口は電気錠を設置し、非常時には自動で開錠できる。

・入所者個々に合わせて意思表出支援（PECS等）を行っている。

2. 合同研修会・事例検討会

《合同研修会：令和4年12月10日》

研修会の講師として大阪弁護士会の弁護士：井上計雄先生をお招きし、成年後見制度に関する「申立て手続きや費用」、「成年後見人の権限や職務範囲」、「人権・虐待問題」など大変貴重なお話を聞くことができました。講演後の懇談会では、参加者から多くの質問があり充実した時間を過ごすことができました。

《合同事例検討会：令和5年3月4日》

法人間で情報共有を図り、共通認識をもって今後の支援に当たることをテーマとして、対応が難しい重度障がい者（強度行動障がい等）の支援のありように関する事例報告会を開催しました。

法人間で共通する利用者2名に関して、各法人の担当者がそれぞれの立場から事例報告（支援方針・最近の様子・工夫している点・課題となっている点など）を行いました。事例報告を通じて活発な意見交換ができ、今後の支援の参考となる大変有意義な研修会でした。

⑥ 成 果

近年の障がい福祉のニーズは、「高齢化」や「重度化」など複雑多様化しています。当法人では、地域で暮らす誰もが「地域で共に支え合いながら安心して安全に生活できる環境づくり」を進めていきたいと考えています。

例えば、対応の難しい重度障がい者（強度行動障がい等）の地域生活を支援するためには、地域における本人を中心とした支援ネットワークを構築し、一法人完結型から地域完結型の協働事業のあり方が必須であると感じています。

また、その協働事業を通じて他法人と連携を図り、支援のありように関する共通認識をもって対応することが利用者の人権に配慮したサービス提供につながるものと考えています。そういう意味において、本事業を通じて「同じ地域の他法人との協働的取り組みによる合同研修会」を開催した意義は大きく、「地域で共に支え合いながら安心して安全に生活できる環境づくり」に向けた布石となるように願っています。

1. 「共同生活援助」見学

当法人では近い将来において、障がいを有する方の重度化・高齢化にも対応できる共同生活援助を創設すると共に緊急事態（親の急病等）にも対応できるよう短期入所を整備する予定です。そのため、本事業を通じて「共同生活援助」見学を実施した意義は大きく、参加した職員一人ひとりの心を刺激して「チャレンジしたい」「やってみよう」という想いがこれまで以上に強くなりました。

2. 合同研修会・合同事例検討会

今回の研修会では、同じ地域の三つの法人が協働的に取り組んだことで親近感や一体感が生まれ、一緒に課題を解決し喜びを分かち合えるパートナーとして、今後における法人間での建設的な取り組みが期待できる貴重な機会となりました。

実際、法人間で情報を共有するなかで、悩んでいることや困っていることなどがストレートに伝わり、各法人の担当者が研修会終了後に活発な意見交換を行っている光景が見受けられました。

合同研修会等を通じて、法人間で同じ方向性や同じ情報を共有しながら「現状をよりよくしていこう」という建設的な考え方を職員間で分かち合う姿勢が見受けられるなど、職員一人ひとりの意識が変わりつつあることが何よりの成果であった。

⑦ 今後の展望

本事業をきっかけとして、今後においても同地域の他法人と連携・協働して合同研修会等を企画し、互いに研鑽を重ねながら地域の福祉力や支援力の向上へとつなげ、「地域で共に支え合いながら安心して安全に生活できる環境づくり」を少しでも前進できるよう努めていきたいと考えます。

⑧ コロナ感染防止対策

- ・ 来訪者名簿の記入
- ・ 来場者の入室前における「検温・手指消毒・マスク着用」の徹底
- ・ 会場内の消毒液設置
- ・ 会場内の換気
- ・ 会場内テーブルの間隔をあけての設置
- ・ 参加者の人数制限



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	94,753	① 共同生活援助見学：謝礼	10,000	
自己資金	5,000	交通費（高速代）	3,320	
		雑費（飲料・菓子等）	3,202	
		② 合同研修会：謝礼（交通費込）	40,000	
		雑費（飲料・菓子等）	3,216	
		研修資料印刷費	927	
		③ 合同事例検討会：謝礼	30,000	
		雑費（飲料・菓子等）	5,314	
		研修資料印刷費	3,774	
計	99,753	計	99,753	

19 支 部 名 : 芥 川 事 業 所

- ① 実 施 日 : 第1回 令和5年2月24日 (金) 第2回 2月25日 (土)
第3回 令和5年3月24日 (金)
- ② 実施場所 : 第1回、第2回 Café Be 大阪府高槻市郡家本町5-2
第3回 Café fika 大阪府高槻市松が丘1-10-14
- ③ 対 象 者 : 第1回 市民及び関係者 延べ35名
第2回 市民及び関係者 延べ48名
第3回 市民及び関係者 延べ17名

④ 実施概要・目的

「障がい者アートの展示と販売 『minna no art』 (みんなのあ〜と)」

障がい者アートを多くの人達に知っていただくとともに、障がいのある人達の社会参加と障がい理解の促進、更に市場につなげることによりその収益を作家である障がいのある人達に還元できるアートを活かした就労支援システムを構築することを目的として、高槻市内の障がい者福祉施設などにおいて日中活動(授産活動)として取り組んでいるアート作品(絵画・イラスト・雑貨小物など)の展示・販売を3回行いました。なお、反省点として後援予定の高槻市に申請書を提出したところ過去に同じ事業を複数回実施している実績要件があるとのことで今回は高槻市の後援は断念しました。

⑤ 具体的内容

喫茶スペースにおいて特別な展示ではなく日常の風景に溶け込むような展示方法を行い、来場者と作家の方々との交流の機会を作り、またアート作品の販売を行いました。また、作家の所有権や著作権を保護するためにガイドライン(案)の策定を行いました。

⑥ 成 果

来場者との交流により作家の方々の自信につながりモチベーションの向上につながったと思います。また来場者の中には障がいのある方や家族も多くおられ社会参加のきっかけにも寄与できたと感じます。

⑦ 今後の展望

当事業を実施することにより障がい者アート活動のすそ野を拡げ、アート活動が収益に繋がるように次の5つの事業を展開していきます。

- 1. 展示会と販売会
- 2. アートレンタル事業
- 3. アートを取り入れた雑貨小物などの製造と販売
- 4. 行政・企業などの印刷物やノベルティ(自己宣伝・商品 宣伝のため団体・個人が無料配布する記念品)への使用促進
- 5. セミナー、ワークショップの開催。

⑧ コロナ感染防止対策

来場者の健康チェック・マスクの着用・手指や備品の消毒・会場内の換気とともに3密にならないように入場制限を行いました。

- 「障がい福祉事業所における作品の取り扱いに関するガイドラインと参考様式(案)」の策定。

令和4年12月20日（火）から令和5年3月28日（火）まで計5回実施。

作家の所有権や著作権を保護するためにまた、販売時の金銭の支払いについて明確にするために、協力機関と共にガイドライン（案）の策定を行いました。

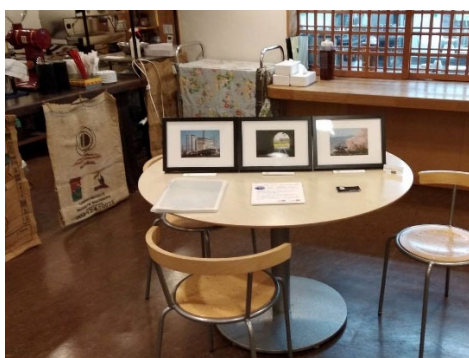
今年度は（案）という形で終わりましたが、引き続き協力機関および関係機関との協議を重ねて完成を目指します。

- オンラインギャラリー「みんなのあ〜と」とリーフレットの作成

広報活動としてオンラインギャラリー「みんなのあ〜と」に特別展のページを追加しました。また、来年度以降の事業推進のためにリーフレットの作成を行いました。

- その他の取り組みについて

高槻市健康福祉部福祉事務所障がい福祉課が実施した「障がい者アートへの取組調査」への協力。 高槻市総合センター 1 階ロビーにおける啓発展示：令和5年4月中旬～7月31日



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	会場賃借料	10,000	
自己資金	27,906	印刷費	18,300	
		委託費	22,000	
		消耗品	44,742	
		通信費	864	
		賠償保険料	1,800	
		交通費	200	
計	97,906	計	97,906	

20 支部名：えるで

- ① 実施日： 令和5年3月21日（火）
- ② 実施場所： 第2えるでとその周辺地域
- ③ 対象者： えるで利用者、関係者、及び地域住民 約400名
- ④ 実施概要・目的

「バオバブとみんなのWA2022の開催」

バオバブをはじめ、南新町という地域や「はーとビュー（松原市人権交流センタ

一) 」を拠点として活動してきた各組織が、いきいきと活動している「事実」を伝える。地域での「取組み」を復活させ、新年度の活動を展望する機会にする。来年度の活動を展望する機会にする。

⑤ 具体的内容

自主製品の販売、利用者とボランティアで運営するゲームコーナー、地域団体の方による販売や出店。（地域団体による子ども食堂も同時開催）

⑥ 成果

晴天に恵まれて・・・とはいかなかったが、400人を超える方に~~ご~~参加いただき、久しぶりにみなさんと共に、にぎやかで活気のある時間を過ごすことができた。

今年度は、更池識字学校、更池あったかサークル、カラフル松原（アジア協会アジア友の会松原）などの地域団体の方にも実行委員会にご参加いただいた。また、ボランティアとして学校の先生方や約20名の中学生のみなさんにも盛り上げていただいた。

今回、久しぶりのイベントでしたが、多くの人に参加いただき、多くの笑顔に会うことができた。みなさんの協力のおかげで、バオバブが理念としている“障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと”を実感できる取り組みになった。

⑦ 今後の展望

この3年間はコロナによる自粛が相次ぎ、地域とのつながりが持てない日々が続き、今まで「地域の中で」「地域と共に」と活動してきたバオバブにとっては、いまだかつてないほど「地域」から遠ざかってしまった3年間だった。

この取り組みの成果を基に、2023年度はより一層地域とのつながりを深めていけるよう、活動を展開していきたい。

⑧ コロナ感染防止対策

地域の学校からテントを借り、会場はすべて屋外に設けた。会場の入り口2ヶ所に受付を設けて、体調の確認と名簿の記入をお願いした。

ゲームコーナー等で使えるチケットを用意し、必ず、受付を通ってもらうようにした。

チケットに回る順番を記載（100通り以上）し、順番に回ってもらうことで、密にならないように工夫した。



⑨ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	卵・野菜代	130,688	
卵売り上げ	60,190	印刷機インク・用紙	222,121	
野菜売り上げ	58,100	出店設営用具等	37,693	
自己資金	128,689	両替手数料	300	
		ゲーム材料費	6,177	
計	396,979	計	396,979	

Ⅱ 資 料

- 令和 4 年度支部活動等助成事業実施要項
- 令和 4 年度支部活動等助成事業実施支部一覧
- 大阪生活サポート協会事業の理念と概要

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会 令和4年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

No	法人名等	支部名	助成決定金額	実助成金額	加入者数	実施事業概要
1	(社福) こごせ福祉社会	拓共同作業所	139,800	139,800	6	「防災用ポータブル電源の整備」 令和4年9月2日 法人として令和4年度の「大阪880万人訓練」に参加。大地震によりライブラインが使用できないことを想定して、助成で購入したポータブル電源を使用 してパソコン・各施設スマートフォンを稼働させ、法人の他の4施設と情報を共有する取り組みを行った。ポータブル電源にパソコンを接続し使用したが 安定して訓練時間内に使用することができた。 また家庭用冷蔵庫や扇風機なども十分に24時間使用することができた。エンジン発電機とは異なり、騒音や排気ガスが出ることもなく、持ち運びも手軽 だったため利便性に優れている。生活施設としてのグループホームへの助成により、早期に整備することができた。
2	(NPO) いきいき	いきいき	150,000	150,000	14	「いきいき日帰り旅行の実施」 令和4年9月2日 京都太秦映画村 利用者の余暇活動、社会参加の場を提供する、社会のルールを学ぶ機会を設けることを目的に日帰り旅行を実施。 京都太秦映画村にて、昼食。その後グループ別に映画村内のアトラクション等体験し、おやつタイムをしたりお土産を購入した。ペースがほぼ同じに 利用者のグループであったため、何がしたいかなど利用者の希望を聞きながらアトラクションを選択し活動した。久しぶりの外出行事で利用者は大変喜んで いた。混んでいるアトラクションは並んで入場など職員と一緒に行動した。コミュニケーションがうまく取れず、一人で集団から離れていた利用者がお り、日ごろの活動の中で自分の意思をうまく伝える方法の獲得が必須と再認識した場面があった。今後は、親御さんのレスパイト、自宅以外で安心して眠 れるようになるということを目指して一泊旅行も再開したいと考える。
3	(社福) 聖徳園	ワークメイト 聖徳園	150,000	150,000	8	「『グルメイベント2022』の開催」 令和4年10月7日 利用者から食事系のイベントの要望も多く、今回事業所内に企画。家族も参加。施設内で外食気分を味わってもらうため、人気飲食店より食品を各1 品をピックアップし、テイクアウトして事業所に持ち帰り昼食時間に提供した。家族が高齢で外食の機会がない方、自分で買っていく・食べに行くことが 難しい方にはハンバーガーやチキンをなどフリーストフードは初めにおおられ、非常に喜んで食べている様子がおられた。いつもは喫茶部のお客様に出 ているお菓子も提供し、自ら味わえるというところで事業所商品への関心も高まった様子が見られた。普段昼食を残す方も、完食されてお外食行事の需 要、人気の高さを感ずる結果となった。今回は平常通りの昼食時間で、給食の代わりという形で提供した為、準備も効率よく、職員が余裕をもって実施で き、利用者とのコミュニケーションを多くすることができた。
4	(社福) 草の根共生会	運(れん)	150,000	150,000	12	「災害時における電源確保のためのポータブル発電機の購入」 令和4年10月13日 災害発生時、規模にもよるが一時的な避難場所として施設が利用される可能性は高く、また甚大な災害となれば家庭の事情や被害状況から施設での生活 も長期化する。当然発電機も想定される中で電源は不可欠と考える。また同法人ではグループホーム入居者もおおりのポータブル電源を持ち運びしやすく、大 いに活用できるため購入した。今後は計画的に備蓄品同様、一台また一台と購入し、災害に備えたいと考える。今回を機に防災意識が高まることを期待し たい。定例で開催される地域交流イベントなどを通じて、ポータブル電源の購入の周知を行い、貸し出しの案内も行って、より地域の方にとって身近な存在 となれるよう努めていきたい。
5	(社福) 路交館	ういず守口	150,000	150,000	31	「メンバー泊旅行の実施」 令和4年10月7～8日・10月21日～22日 神戸ハーバーランド・しあわせの村 コロナ禍で宿泊旅行は中止となっていたが、メンバー同士の懇話のため3年ぶりに宿泊旅行を実施。とはいえ、宿泊行事の経験が少なくない職員が 大半を占める中、また退職や長期入院の職員が出たため職員体制が不十分になった。安全確保を最優先するために、日程を2回に分け、他の部署からの職 員の応援を得て無事に旅行を終えることができた。利用者も数年ぶりの行事に、たくさん笑顔と意思の共有ができた。利用者の希望・職員の 思いがある中で、優先順位は何なのか、何を目的に何を行うかを職員間で葛藤、議論できたことが良かった。
6	(社福) いわき学園	住之江木の実園	150,000	150,000	9	「バスレクリエーション(日帰り)の実施」 令和4年10月15日 万博記念公園・コスモタワー バスレクリエーションを感染対策を講じ、2年8か月ぶりに実施した。万博記念公園内のミュージアム「ニフレ」では、グループに分かれ、普段見る ことのできない多種多様の生き物や動物を鑑賞、近くで触れ合うことができた。コスモタワーではビューフェにて大阪の景色を眺めながらハイキング料理 を味わった。参加にあたっては、利用者に通常、実費相当額を負担していたが、助成により参加費用(負担)が抑制される旨の案内を出したと ころ、従来のバスレクリエーションより多くの利用者に参加していただくことができた。近年感染防止のため、多くの外出行事を中止し、外出の機会が減 少していたが、今回集団で行動することにより、より良い人間関係を築き、社会生活への関心を高め、更に外出することの楽しさを再認識することができ た。

No	法人名等	支 部 名	助成 決定金額	実助成金額	加 入 者 数	実 施 事 業 概 要
7	(社福) コスモス	ふれあいの里 かたくら	70,000	70,000	3	「サイドガード・フロアマットの購入」 令和4年11月28日 重度障がい者グループでは、食後やリラクゼーション・ストレッチの際に車いすから降りて床にフロアマットを敷き、その上で身体を伸ばす時間を設けているが、その時に安全にストレッチがやりやすいようにフロアマットとサイドガードを購入・設置した。サイドガードは仕切りの役目もあり、利用者の視線に急に職員の手や靴が当たって怪我を防ぐことができる空間を提供することができた。引き続き、環境整備を充実させていきたい。
8	(社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ	150,000	150,000	26	「忘年会の実施」 令和4年12月24日 コロナ禍で、ストレスを感じている利用者の「楽しみ」の創出、また集団としての意識を高めみんななでがなばつたことを評価し、協働、助け合いの気持ちや再認識することを目的に忘年会（外食）を実施した。コロナ禍でも「楽しみ」な活動が減少している中でも取り組めたことに、ほとんどの利用者が喜び、参加率も高かった。普段は相性の合わない利用者同士でも「忘年会」の間は一緒に楽しみを共有することができた。普段の日課では、個々に合わせた小グループでの活動が基本となるため、事業所全体としての仲間意識が希薄になりがちであるが、今回のような全体行事は仲間意識を再確認する場として必要であり、「忘年会」はほとんどの利用者が楽しみにしている全体行事として、不可欠な取り組みであると認識できた。
9	(社福) 路交館	ういず滝井	150,000	150,000	8	「利用者一泊旅行の実施」 令和4年9月9～10日 京都 嵐山 事業所では、重度な障がいのある生活介護利用者にとっても仲間と共に過ごすことを大事に考えてきた。コロナ禍の中で2年間実施できなかつた。「メンバー旅行」の実施を行った。メンバー旅行委員会を設立し、バスの座席や散策先のお店の決定、宴会の司会・出し物の練習など旅行までの過程を大事にし企画・運営を利用者とともに作り上げた。「飛び出せ京都」と題し、日々の仕事と慰労で生活のメリハリをつけるとともに、次の利用者のやる気の向上につなげることを目的に実施した。行くためには何をやるのか、どうするのかを利用者と共に考え、行程も一緒に決めたため、行事を利用者が自分たちのものという意識が生まれた。
10	(株) アベリア企画	ハマギキ広場	32,400	32,400	2	「日本情報処理検定受験における祝勝会・残念会の開催」 令和4年10月31日 事業所では就労支援事業の一環として不定期ではあるが、パソコンレベルの向上を目的に勉強会を実施。成果を確認するためと、将来の就労に役立たせるため10月に実施された日本情報処理検定（ワープロ検定準2～4級・情報処理検定準2～4級）に利用者が受講。5名の合格者が祝し、「祝勝会」を、不合格者の健闘を称え「残念会」を実施した。例年ならば、外食等で食事会を行うが、新型コロナウイルス感染症対策として弁当を購入しての開催となった。開催にあたっては、コソコソと自宅や事業所内での勉強努力は必ず成果となること、人の意ひや悲しみを共有し、思いやり・協調性を養うことを目的に実施した。成果としては、パソコンレベルの向上が図れ、通販サイト業務に参加される方の増員がなされた。 また、コロナ対策としては、受験会場を一般会場ではなく、事業所にて実施の承認を得て少人数で受験することができた。
11	(NPO) 百舌鳥あすなろ会	あすなろ授産所	70,000	70,000	3	「大規模震災に備えて発電機の購入」 令和4年10月5日 大規模震災が日中活動中に起これば、利用者の家族と連絡が取れるまでは、事業所で過ごすことになり、電気が復旧するまで、少なくとも利用者・職員20名あまりが、2日間ぐらい事業所で過ごすだけの備蓄が必要であり、現在用意している発電機だけでは十分でなく、助成により電力の大きな発電機を増設した。11月に地震・水害想定避難訓練を実施。その際、試運転を行い職員全員が操作できるようにした。今後も発電機により停電の備え以外に、食料が少ない時の支援の仕方、送迎方法、ご家族や関係機関との連絡方法等、あらゆることをシミュレーションし、敏速に対応できるようにしたい。
12	(社福) 摂津有和会	摂津市立 ひびきはばたき園	150,000	53,115	6	「つくっ展（作品展）の開催」 令和5年2月18日～23日 当初、「つくっ展と輝けコンサート」の内容で助成申請・決定していたのだが、コンサートについては、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、多数の来客者が一つのホールにいる状況では感染回避は難しいとの判断から、今年度は中止となった。 「つくっ展」では、利用者が年間を通じて作り上げた絵画や置物・陶器などの作品を出品、たくさんの方々に見ていただくことを目的に実施した。作品を通じて日頃の訓練や活動について、来場者に理解を深めていただくことができ、地域との交流・相互理解・地域福祉の啓発という役割をイベントを通して果たすことができた。今後も、この行事は10数年続いているため、継続して実施していきたい。また、地域との交流・相互理解・地域福祉の啓発という役割をイベントを通して、手指用のアルコール配置とマスク着用などの注意喚起を行った。
13	(合同) 美之倉	やすらぎの苑 中津	70,000	70,000	1	「コミュニケーション訓練（交流会）」の実施 令和4年12月28日 事業所内で就労訓練（コミュニケーション訓練）を交流会として実施。挨拶や言葉使いなど日頃から実践できていることをゲームとして参加していただき、グループでゲーム対戦を行った。ビンゴゲームを互いに伝えた際に、カード番号をお互いに伝えて見えてあげた。コミュニケーションをとる楽しみが広がっていることができていた。また理解が苦手な利用者には、協力して一緒に楽しむ姿が見られた。コロナ禍の中、コミュニケーションも取りにくい日々が続いているが、この交流会はとても楽しかったのか、次回も楽しみに作業者頑張りたいと話す利用者が多かった。普段からコミュニケーションも取りにくい日々が続いているが、この交流会は表情がからととも楽しんでいる様子が大切にしていきたい。

No	法人名等	支部名	助成 決定金額	実助成金額	加入者数	実施事業概要
14	(社福) いずみ野福社会	山直ホーム (やまだい)	84,000	84,000	35	「クリスマス会の開催」 令和4年12月10・11・17・18日 コロナ対策として4回に分けて、各班ごとに開催した。利用者が主体で会を実施できたように、利用者自身が内容を決めることが困難な班では職員とコミュニケーションをとりながら、一緒に内容を決めたりなど、各班ごとに内容を考え実施した。利用者が司会を務めたり、飾りつけ、買い出し、食事準備、片付けなどにも積極的に参加できているように利用者にも積極的に支援を行った。その結果普段よりも表情が良い利用者が多く見られたことと、複数の利用者から笑顔で「楽しかった」「料理がおいしかった」「また来年もしよう」など今回の感想が職員にあった。施設内行事が減っている中で、今回のクリスマス会を通じて利用者のQOLの向上が図れた。
15	(社福) 障友会	わららか草部	148,500	148,500	32	「わららか草部創立20周年記念式典の開催」 令和4年10月14日 わららか草部は昨年11月1日で20周年を迎えた。様々なセレモニーを行う中、記念品を作成するうえで施設を空撮したカレンダーを作成してはとどの意見があり、その作成の前撮りとして人文字で「20」をつくりドローンでの撮影を行った。その撮影費として助成金を使わせていただいた。撮影した写真を使用してカレンダーを作成、利用者に配布した。(式典の11月1日に配布) 今後も、5年・10年と節目の年に施設の記念式典を実施の予定。
16	(社福) さんすまいる	さん・すまいる	150,000	150,000	8	「さん・すまいる満10歳お祝いの会の開催」 令和5年1月4日 施設の10年間の経過を知ってもらい、利用者・職員・来賓で共有するために実施。スライドを見ながら、パワーポイントを流し説明を行うことで、どの利用さんも話を聞いたり、スライドを見ることができていた。また、近年採用された職員も共有できていた。職員・来賓からも言葉でいたいたが普段聞くことのできない思いを聞くことができ、利用者にとっても良い機会となった。記念品(タオル)についても、10年前の開所時に「書」の先生と一緒に取り組んだ「さんすまいる開所式」の文字をロゴにし作成した為、「書」の先生も利用者にタオルの文字の説明をされ思いを語られた。利用者は、思い思いを感じているものがあったと思われ。会食では出張寿司の形式をとり、利用者が自分から注文するスタイルをとり、自分から注文する寿司店の経験がない利用者も欲しいものを表現する経験ができた。
17	(社福) 大阪府 社会福祉事業団	みずほおおぞら	70,000	70,000	10	「地域移行システムの運用実施に伴う機器の購入」 令和4年10月11日、令和5年3月17日 みずほおおぞらの移行型施設入所地域移行を実施してきた経験から作り上げた地域移行プログラムの実践を行なった。そのプログラムの後段階として施設内にある「つながりホーム」での体験を利用者にしていただき、変化してきた環境での体験、支援者から離れて過ごす経験をしていただいた。「つながりホーム」にはICT(情報通信)機器の見守り支援機器があり、リモートで利用者の様子の確認や行動の記録、これまでの支援の変化の確認を行った。購入したノートパソコンを活用し、遠隔での見守りシステム運用を行った。また、豊中市内のグループホーム事業所の管理者や世話人等にかけて、支援の質の向上のための研修を行った。リモートによりグループホーム事業所の勤務中でも研修の受講が可能となった。また、地域生活支援拠点等として、グループホーム事業所へ無償で研修の提供も行った。
18	(社福) 和泉つくし福社会	さらの郷	240,000	94,753	12	「人材育成及び専門性向上のための合同研修会等の実施」 令和4年10月～令和5年3月 対応が難しい重度障がい者の地域生活を支援するためには、地域における本人を中心とした支援ネットワークの構築、支援の共通認識、地域完結型の協働事業が必須であるとの視点から、同じ地域の他法人との協働的取り組みによる合同研修会・共同生活援助事業所の見学を実施した。合同研修会では講師を招き、成年後見制度、人権・虐待に関する講義を開催、また対応が難しい重度障がい者の支援のあり方に関する事例報告会も行った。今回の研修会では同じ地域の三つの法人が協働的に取り組んだことで親近感や一体感が生まれ、一緒に課題を解決し喜びを分かち合えるパートナーとして、今後における法人間での建設的な取り組みが期待できる貴重な機会となった。 見学では、強度行動障がいや有する方への対応に配慮して設計されたグループホームを訪問した。当法人では近い将来において、高齢化や重度化にも対応できる共同生活援助事業と短期入所事業の開設を考えているため、参加した職員一人ひとりの心を刺激し、事業にチャレンジしようとの思いがより強くなった。今後とも地域の他法人と連携・協働し「地域で共に支え合いながら安心な生活ができる環境づくり」に努めていきたい。
19	(社福) 明星福社会	芥川事業所	70,000	70,000	1	「障がい者アートの展示と販売『minna no art』(みんなのあへと)」 令和5年2月～令和5年3月 障がい者アートを多くの人達に知っていただくとともに、障がいのある人達の社会参加と障がい理解の促進、更に市場につなげることににより、その収益を作家である障がいのある人達に還元できるアートを活かした就労支援システムを構築することを目的として、高槻市内の障がい者福祉施設などにおいて日中活動(授産活動)として取り組んでいく。アート作品(絵画・イラスト・雑貨小物など)の展示・販売を3回行った。 喫茶スペースにおいて特別な展示ではなく日常の風景に接し込むよう展示方法を行い、来場者と作家の方々の交流の機会を作り、またアート作品の販売を行った。また、作家の所有権や著作権を保護するためにガイドライン(案)の策定も行った。 来場者と交流することで作家の方々の自信につながりモチベーションの向上につながった。また来場者の中には障がいのある方や家族も多くおられ社会参加のきっかけにも寄与できたと感じた。

No	法人名等	支部名	助成 決定金額	実助成金額	加入者数	実施事業概要
20	(社福) パオバブ福祉会	えるで	150,000	150,000	17	<p>「パオバブとみんなのWA2022の開催」 令和5年3月21日 地域の人々に、地域で生きる障がい者の存在や「パオバブ福祉会」を知ってもらうと共に、障がいのある人もない人も共にいきいきと生きる姿を 発信することを目的に開催。自主製品の販売、利用者さんとボランティアさんで運営するゲームコーナー、地域団体の方による販売や出店（地域団体によ る子ども食堂も同時開催）を行った。400人を超える方に参加いただき、久しぶりにみなさんと共に、にぎやかで活気のある時間を過ごすことができた。</p> <p>今年度は、ボランティアの方にも実行委員会に参加いただいた。</p> <p>また、ボランティアとして学校の先生方や約20名の中学生のみなさんにも盛り上げていただいた。みなさんの協力のおかげで、パオバブが理念としてい 今回、久しぶりのイベントだったが、多くの人に参加いただき、多くの笑顔に会うことができた。この3年間はコロナによる自粛が相次ぎ、地域とのつながりが持 たない日々が続き、今まで「地域の中で」「地域と共に」と活動してきたパオバブにとっては、いまだかつてないほど「地域」から遠ざかってしまった3 年間だった。この取り組みの成果を基に、2023年度はより一層地域とのつながりを深めていけるよう、活動を展開していきたい。</p>
			2,494,700	2,252,568		

理念

大阪生活サポート協会は、全国生活サポート協会と連携し、助け合うという「互助」の精神を柱に、知的障がい児者・自閉症児者の皆さまをかけがえのない存在として捉え、安全・安心に、より豊かな生活が送れるよう支援しています。



一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会（全国生活サポート協会）は、2006（平成18）年11月に知的障がい児者・自閉症児者とその家族の生活上での安全・安心と福祉の増進に寄与する事を目的として設立されました。

現在、全国46箇所の知的障害児者生活サポート協会（生活サポート協会）と連携し活動しています。

事業と補償制度

大阪生活サポート協会は、知的障がい
児者・自閉症児者一人ひとりが地域
中で「自分らしく生きる」ために各種
事業と補償制度で支援しています。

会員・その家族、 支部（事業所等） 支援

会員（本人）支援

- 日常生活支援
- 集まれ GH（就労生活支援）
- 表現活動支援
（作品展示会の開催）
- 権利擁護
- スポーツの振興 など

家族支援

- セミナー
- 研修会 など

支部（事業所等）支援

- 支部活動等助成事業
（本人参加型事業、人材育成
など）
- 地域密着型活動支援
（他団体及び事業所間連携・
協働による事業 など）

地域支援

地域における支援力向上

表現活動支援

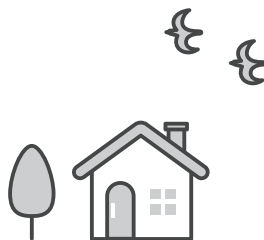
- 作品展示
（ホームページ、展示会）

人材育成（支援者支援）

- 研修会等の開催
- 他団体及び法人間連携・
協働事業の推進

調査研究

- 共同生活援助（GH）の実態
調査 など



相談

困ったとき、いつでも

なんでも相談

（ホームページ内）

電話・ホームページ からの相談

- 補償制度に係る相談
（ホームページ問合せコーナー）
→ J I C Wへ転送
- その他相談

対面相談（予約制）

- 弁護士相談、税理士相談
- 社会保険労務士相談
- 補償制度に係る相談 など



補償制度

生活サポート総合補償制度（AIG普通傷害保険）



令和 4 年度 支部活動等助成事業報告書

令和 5 (2023) 年 7 月 発行

発行人 安本 伊佐子
発行 一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
(大阪生活サポート協会)
〒542-0012 大阪府中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号
大阪府社会福祉会館内
TEL : 06-6764-6889 FAX : 06-6770-5988
E-mail : kyokai@osakasupport.or.jp
URL : <https://www.osakasupport.or.jp>
